

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：薬務水道費 目：薬務費

事業名 若年層献血推進対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 薬務水道課 献血運動推進係 電話番号：058-272-1111(内3428)

E-mail：c11224@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 30,500 千円 (前年度予算額： 30,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	30,500	10,019	0	0	0	0	0	0	20,481
要求額	30,500	10,019	0	0	0	0	0	0	20,481
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・県内における献血者数は年々減少しており、特に若年層(10代から30代)の献血離れが著しい状況である。
- ・献血は医療体制の維持に不可欠なものであるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、県内の高校、大学等における献血の機会が減少した。
- ・将来にわたり血液製剤を安定的に確保できるよう、県と関係機関が連携して若年層の献血推進に取り組む必要がある。
- ・これまでの献血啓発事業の推進や新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、献血者数は回復傾向にあり、今後さらなる献血者の確保を図る。

(2) 事業内容

(1) 若年層を対象とした献血プロモーション事業の実施

- ・岐阜献血ルームアクティブG及びJR岐阜駅における啓発事業の実施
- ・献血者確保を目的とした献血会場での啓発事業の実施
- ・タレントを活用した献血PRの実施

(2) 学生と連携した献血啓発の強化

- ・献血活動に関心のある高校生、大学生の「岐阜県学生献血ボランティア」数を増やし、献血会場での学生献血ボランティアによる呼びかけやSNS等を活用した情報発信の定着化
- ・学生献血ボランティア集会等の開催による学生のアイデアを取り入れた啓発活動の展開

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（以下「血液法」という。）第5条において、献血の推進は地方公共団体の責務とされていることから、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	168	業務旅費
需用費	916	消耗品費、印刷製本費
役員費	309	通信運搬費
使用料及び賃借料	750	献血啓発イベント会場費
委託料	28,357	若年層を対象とした献血プロモーション業務委託
合計	30,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律
- ・岐阜県献血推進計画
- ・献血推進に係る新たな中期目標「献血推進2025」

(2) 国・他県の状況

- ・国は、献血推進計画において、若年層対策としてSNSを含むインターネット等を主体とした情報発信、学生献血推進ボランティア等の同世代からの働きかけ等の取組みを行うよう定めている。
- ・10代から20代の献血者数の割合が比較的高い県における学生献血推進ボランティア活動の取組み、インターネットを活用した啓発の実績等を確認している。

(3) 後年度の財政負担

令和8年度までの対策事業とする。

(4) 事業主体及びその妥当性

安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（以下「血液法」という。）第5条において、献血の推進は地方公共団体の責務とされており、献血運動の展開、献血について県民に正確な情報を伝え、その理解と協力を得ることは県が取り組むべき事項とされている。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県内における10代から20代の献血者数の増加を図る。

学生献血ボランティア数を増やし、若年層を対象とした効果的な普及啓発活動を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
① 16～19歳人口 に対する献血者数 の割合	3.2 (全国平均4.2)	3.6	3.8	3.9	4.2	86%
② 20～29歳人口 に対する献血者数 の割合	4.2 (全国平均5.5)	3.8	4.9	5	5.5	69%
③ 学生献血ボラ ンティア数（人）	10	339	300	300	300	100%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	
令和 3 年度	
令和 4 年度	<p>指標① 目標：<u>4.2</u> 実績：<u>3.5</u> 達成率：<u>83</u> %</p> <p>① 「学生献血ボランティア登録制度」の創設 <ul style="list-style-type: none"> ・献血会場周辺で献血への協力を呼びかけ ・学生ボランティア集会の開催 </p> <p>② 学生献血ボランティアを活用したSNS情報発信等 <ul style="list-style-type: none"> ・学生献血ボランティアによるインスタグラムへの献血情報の投稿 ・web広告による献血啓発 </p> <p>③ 若年層を対象とした献血プロモーションの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・タレントを起用した献血PRの実施 ・若年層献血者に対するサービス提供 </p> <p>指標① 目標：<u>4.2</u> 実績：<u>3.6</u> 達成率：<u>86</u> %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>▪ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>若年層の献血者数が減少しており、中長期的に献血者を確保し、安定した医療体制を維持するためには状況改善が急務。</p>
<p>▪ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価)	_____
<p>▪ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価)	_____

(今後の課題)

<p>▪ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 特に献血者数が減少している20代、30代を対象とした普及啓発の強化が必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>▪ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 将来献血の担い手となる若年層を対象とした啓発活動を強化し、県内の若年層献血者数の増加を図る。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	_____ 【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	_____